

〈音楽する社会〉講座 2025



第一
回

3.08 (土)

10:00-12:00

@かじかの湯
化石展示室

入場無料
予約不要

「赤いスイートピー」～松田聖子はどのようにして

1980年代にアイドルになったのか～

講師 小川博司

1952年東京生まれ。関西大学社会学部名誉教授。専門はメディア文化研究、音楽社会学。新野高原学生村に学生として入村したのがきっかけで、新野との縁ができ、新野に家を建て、盆踊りの音頭取りにもなった。現在は、西宮の自宅と新野とを行き来する生活をしている。主な著書に『音楽する社会』、『クイズ文化の社会学』（共編著）、『メディア時代の広告と音楽』（共著）など。



主催 〈音楽する社会〉講座実行委員会

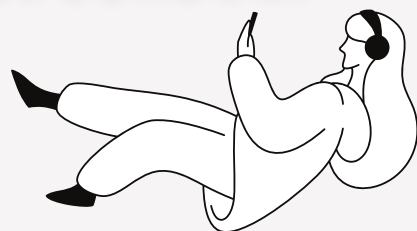
問合せ 070-9204-1287 (仲藤)

後援 阿南町公民館

講座へのお誘い

「歌は世につれ、世は歌につれ」と言われます。歌はどのように世につれるのでしょうか。世は歌につれることがあるのでしょうか。本講座では、音楽が時代・社会とともにどのように変わってきたのかを、懐かしい音楽を聴きながら、映像を見ながら、考えていきます。過去を振り返ることは未来を見通すことにつながります。

懐かしい歌は、それを聞いた時の自分や周りにいた人びとを思い出させてくれます。自分の人生を振り返るきっかけになります。本講座で流される歌の中には、あまりにも昔すぎて知らない、あるいは新しすぎてついていけないというものもあるかもしれません。しかし、だからこそ歌は世代を越えた話題になります。新しい歌との思わぬ出合いもあるかもしれません。



第1回（内容）

1980（昭和55）年にデビューした松田聖子は、1980年代を代表するアイドルとなりました。そして、デビュー40年を越えた現在でも現役のアイドルとして、コンサートでは多くのファンを集めています。松田聖子は、どのようにして時代を代表するアイドルとなったのでしょうか。そして、どのような意味で時代を代表するアイドルと言えるのでしょうか。デビュー当初、彼女のファンは圧倒的に男性が多かったのですが、「赤いスイトピー」（1982（昭和57）年）をきっかけに女性ファンが増えていきました。日本のポピュラー音楽史の中に松田聖子を位置づけ、女性の生き方の変化との関係を考えていきます。また、今日の「シティポップ」再発見との関連も見ていきます。

第2回 2025年5月（予定）

ふるさとソングの系譜——文部省唱歌「故郷」から
「川の流れるのように」まで

第3回 2025年秋（予定）

『紅白歌合戦』はどこへ行くのか

